

自己評価報告書(最終報告)

報告者

教職実践力高度化コース/
金見 正史

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

教員のキャリアアップを目指した平成25年度からの教職大学院のカリキュラムのもと、高度専門職業人として学び続ける教員を育成するために、教職実践力を高める授業実践を目指す。

- ① 「授業の理論と実践」では学習心理学を元にした理論と実践が一体となる指導に重点を置く。「教科カリキュラムの内容と構成」では、内容論と方法論を関連させながら指導する。
- ② まず教員チームの連携を深める。その上で、授業は一方的な講義形式だけにとどまらず、提案と議論の場を適切に設けて理解を深められるようにし、教員と学生間の教職協働性も高めるようにする。
- ③ 教職実践力に関する3つの領域(教育実践力、自己教育力、教職協働性)とそれに伴う10個の観点に基づいて設定する到達目標の形成的評価と授業における議論やレポートの評価を総合した評価を行う。

2. 点検・評価

高度専門職業人として学び続ける教員を育成するために、教職実践力を高める授業実践を行った。

- ① 学習指導の理論と実践を融合して、算数・数学や道徳、理科の授業実践を分析・考察する講義を行った。
- ② 授業は講義だけでなく、マイクロティーチングを取り入れて教師と児童・生徒の立場を経験する機会を設けて、学習指導を多面的に捉えられるように工夫した。
- ③ 教職実践力に関する3つの領域(教育実践力、自己教育力、教職協働性)とそれに伴う10個の観点に基づいて設定する到達目標の形成的評価と授業における議論やレポートを総合した評価を行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ① 特に平成25年度からの教職大学院の大切な授業である「チーム総合演習Ⅰ」の授業実践に精力的に取り組み、授業を進めながらの検証と改善を、教員チームと協力して行う。
- ② 「授業実践事例研究」では、様々な学校種の学校における授業実践事例を参観し、授業研究につながる議論を重ねるように努める。
- ③ フィールドワークでの実地指導に積極的に取り組む。
- ④ 1年生と2年生との交流の機会を継続的に作り、互いの持つ経験をシェアし合えるようにする。

2. 点検・評価

- ① 新カリキュラムの中核をなす「チーム総合演習Ⅰ，Ⅱ」では、小グループの担当教員と協力して、院生が主体的な議論や活動ができるように促すことができた。
- ② 院生が分析した置席校の課題について、教職大学院で学ぶ多くの理論と実践をもとにした具体的改善策を検討・実践する機会を数多く設けた。
- ③ 教職大学院1，2年生の交流や議論の機会をできるだけ設けるように心がけた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ① 主に算数・数学教育に関わる教材開発に精力的に取り組む。科学研究費補助金の取得にも積極的に挑戦し、研究の質を高める。
- ② ICTMA16(ブラジル)で研究発表(7月)を行い、モデリングの過程の考察を深める。
- ③ 学術論文の投稿を試み、研究成果を発表する。
- ④ 鳴門教育大学研究紀要に投稿し、教育と研究の成果を発表する。

2. 点検・評価

- ① 科学研究費補助金(研究活動スタート支援)「数学科と理科を総合したデジタルコンテンツの開発とその利用に関する実証的研究」(平成25年度-26年度)を取得し、初年度として基礎的な実験授業を行った。
- ② 鳴門教育大学研究紀要第29巻に論文「学習活動における言語活動の充実のための一方策」を投稿した。
- ③ ICTMA16や数学教育学会等で研究成果を発表した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ① 学校支援アドバイザーに登録し、アドバイザーとして活動する。
- ② 教職大学院の教職実践力高度化コースの一員として、コースおよび専攻に精力的に協力する。
- ③ 専攻のP2修学担当、およびカリキュラム開発委員会のメンバーとして、積極的に活動する。特にP2修学担当として、学生に積極的に関わって諸活動の支援に努める。

2. 点検・評価

- ① 学校支援アドバイザーに登録し、アドバイザーとして2回活動した。
- ② 教職大学院の教職実践力高度化コースの一員として、コースおよび専攻に精力的に協力した。
- ③ カリキュラム開発委員会、コラボ会議にて積極的に活動した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ① 付属学校の授業見学や研究会に参加し、付属学校との連携を深める。
- ② 学校支援アドバイザーとして、大学と地域、学校現場との連携の構築に努める。
- ③ 鳴門教育大学教員教育国際協力センター等と連携して、できる限り国際交流の場を設ける。

2. 点検・評価

- ① 鳴門教育大学附属学校園の授業見学には可能な限り参加して、連携を深めた。特に附属学校の算数・数学科の先生方と知り合い、教大研徳島支部会員としても活動を始めた。
- ② 学校支援アドバイザーとして学校現場での授業改善のための研究協議を行い、授業研究の重要性を伝えることができた。
- ③ 教員教育国際協力センター主催の大洋州本邦研修には可能な限り足を運び、助言や指導を行った。またパラオ国で実施された大洋州広域研修で講演も実施した。さらにミクロネシア三国広域研修(算数教育)レビュー調査団員として現地にて技術指導を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

科学研究費補助金の獲得や鳴門教育大学研究紀要への投稿, 諸学会での発表や投稿など, 授業と研究を大切に積極的に取り組んだ。